

お盆とお施餓鬼

民俗行事のお盆が来ます。特に旧盆の八月十五日前後は仏教徒であることの如何にかかわらず、多くの人がふるさとをたずね、大移動となります。超満員の乗り物、延々と続く自動車の大渋滞もなんのその、故郷を訪ね、先祖を思う、麗しいことです。

お盆は目連尊者が餓鬼道で苦しんでいるお母さまを救うことから始まりました。

施餓鬼法要は、阿難尊者が短命を免れるために行ったことから始まりました。

ともに餓鬼を供養することによって救われました。それは、かつて他人に対して無慈悲なこと、地悪なことを行なったので、死後、その世界に落ちて身も心も責められているのです。よくよく自分を反省してみると、うっかりすると今の自分もこの様な状態に陥ることがあるのではないのでしょうか。人に意地悪をする。人を裏切る。人に嘘をつく。そして人を苦しめるとともに自分も苦しむ。何か欲しいと思って手に入れたけれども、それが災いのもととなってしまった。もともと欲しいと、欲望をふくらませて、取り返しのつかないことになってしまった。そしていつ懲らしめられるかとヒクヒクしている。餓鬼と同じことが思い当たることはありませんか。このような自分の心と、同じように苦しむ多くの餓鬼を救うために施餓鬼を行うのです。「施」というように、施しを行うのです。

施しには、物やお金を施す財施・仏様の教えを施す法施・安心を与える無畏施があります。施餓鬼法要では、まず食べ物をお供えし、お寺に財物をお供えします。これが財施です。法要でお経をお供えし、法話もあります。これが法施です。法要の中で、これらを施すとともに、仏様にお出でいただき、餓鬼に安心を与えます。これが無畏施です。

施餓鬼壇にお出でいただく仏様は慈悲の五如来です。まず、無慈悲なく、意地悪なことをして苦しむ心を救ってくださるのは、過去宝勝如来さまです。み名の通り過去の罪業を清めてくださいます。どのような極悪人でも、一つか二つはやさしい気持ちを持っていたことがあるでしょう。醜い姿を美しくして下さるのは、妙色身如来さまです。心が美しくなると同じ姿でありながら光り輝いてきます。

食べ物や炎とならずにおいしく頂けるようにして下さるのが、甘露王如来さまです。がつがつせず、感謝を以て頂くのです。食べ物はお米も野菜も命あるものです。その命を私たちはいただいています。

通らない喉を広げてくださるのは、広博身如来さまです。心が苦しんでいると物も喉を通りません。心を広くしてください。おあらかな心、人を救済する心は自分をも心豊かな思いに満たされます。そして恐れることがないようにならしてください。離怖畏如来さまです。自分の幸せのみに中心をおいていると、餓鬼になります。慈悲を根本にして人の幸せに中心をおいて日々の生活をしていけば、恐れるものは何もありません。お施餓鬼の法要にはこれらの仏様に供養して、餓鬼を救って頂くのです。ご先祖さまも私たちも含めて、餓鬼を救って頂くのです。お盆のお墓参りと同じように、お寺での施餓鬼法要にも是非ご家族そろってお参りしましょう。そして、地球のあちこちで現実に飢えの毎日をおくっている人たちに慈悲の気持ちを捧げましょう。(鈴木)

法話の案内

日時 9月8日(月)
午後1時45分集合

場所 寿楽院 本堂

布教師

徳島県 鯖大師本坊
柳本明善 僧正

皆様のお越しをお待ちしています。



昨年の法話風景

空海の言葉 シリーズ

十界の有る所、これ我が心なり

自分の心のなかには、十の世界がある

誰でも心に善玉の世界と悪玉の世界をもっています。自分の考えを大声で吹聴したいときは、心が善玉の世界にいるときです。人にいえないことを考えたときは、心が悪玉の世界にいるときです。

人間の心の世界は、善玉の世界(悟りの世界)が四つ、悪玉の世界(迷いの世界)が六つ、合わせて十の世界に分かれています。人間の気持ち(感情)は、まるで花から花へと、蜜を求めて移り飛び蜜蜂のように、一刻の休みもなく、いつも十の世界を飛び回っているのです。その十の世界とは、最高は、「仏の世界」です。一番手は「菩薩」の世界です。三番手は「縁覚の世界」です。座行をして、自然の道理を身につける世界です。四番手は「声聞の世界」です。お釈迦さまの道理の法を信ずる、耳を傾ける世界です。ここまですべて善玉の世界で、これから悪玉の世界に入ります。五番手は「天上の世界」です。天上には天女が住んでいます。彼女たちはいつも有頂天で、人の不幸など知らぬ顔の世界です。六番手は「人間の世界」です。毎日を四苦八苦している世界です。七番手は「修羅の世界」です。争いごとの大好きな世界です。八番手は「畜生の世界」です。弱肉強食で、人の生命なんてなんとも思わない世界です。九番手は「餓鬼の世界」です。どんなに美食をし、美衣を着、豪邸に住んでも、どんなに財宝や土地をもっても、やっぱり欲求不満の世界です。最低は、地獄の世界です。なにこともよいことは自分のせい、悪いことは全部人のせいにして、常に他人を責め憎む世界です。これが我われの心のなかです。お大師さんは、「どうか、みんなが善玉の世界に住みますように」と、祈っておられるのです。

